

安全データシート

作成：2015年6月30日

改定：2022年4月1日

整理番号 **POWERTORE P I - 4 0 1**

1. 化学物質等および会社情報

1-1 製品

製品名 ①パワトレ P I - 4 0 1
使用分野 ②塗料ミスト処理
製品内容 ③塗料ミスト処理剤

1-2 供給者情報

会社名 ①株式会社 P I
住 所 ②愛知県豊田市陣中町 1-22-6
担当部門 ③薬品事業部 P I ケミストリー
販 売 者 ④株式会社 P I
電話番号 ⑤0565-77-0106
FAX 番号 ⑥0565-77-5075
緊急連絡先 ⑦0575-77-0106

2. 危険有害性の要約

2-1 GHS 分類

◆健康に対する有害性	①皮膚腐食性・刺激性	区分 1
	②眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	③皮膚感作性	区分外
	④生殖細胞変異原性	区分外
	⑤特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分 1（呼吸器）
◆環境に対する有害性	①水生環境有害性（急性）	区分 3
	②水生環境有害性（慢性）	区分外

※ 記載がないものは分類対象外または分類できない。

3-1 ラベル要素

◆絵表示またはシンボル



- | | |
|----------|------------------|
| ◆注意喚起語 | ①危険 |
| ◆危険有害性情報 | ①重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 |
| | ②呼吸器の障害 |
| | ③長期的影響により水生生物に毒性 |

3-2 取扱注意

- ◆予防策
 - ①保護手袋・保護眼鏡・保護面・保護衣を着用する。
 - ②取り扱い後は良く洗う。
 - ③ミスト・蒸気・スプレーを吸入しない。
 - ④この製品を使用する時に、飲食または喫煙しない。
 - ⑤環境への放出をさける。

- ◆対応
 - ①皮膚（または髪）に付着した場合
 - ◇ 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと・取り除く。
 - ◇ 皮膚を流水・シャワーで洗う。
 - ②汚染された衣類を再使用する場合には洗濯する。
 - ③眼に入った場合
 - ◇ 水で数分間注意深く洗う。
 - ◇ コンタクトレンズを着用している場合は極力外すこと。その後も洗浄を続ける。
 - ④飲み込んだ場合
 - ◇ 口をすすぐこと。無理に吐かせない。
 - ⑤吸入した場合
 - ◇ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
 - ⑥付着した時や気分が悪い時は
 - ◇ 医師の診断／手当てを受ける。
 - ⑦漏出物を回収すること。

- ◆保管
 - ①強アルカリ性のため、指定された保護具を着用。
 - ②製品を使用しない場合
 - ◇ 容器を密栓する。
 - ◇ 他物質が混入しないように保管する。
 - ◇ 凍結させない。
 - ③凍結した場合
 - ◇ 融解して完全に混合してから使用する。
 - ④施錠して保管する。

- ◆廃棄
 - ①「廃棄物の処理及び清掃に関する法」等に従って焼却処理を行うか、又は許可を受けた廃棄物処理業者に委託して処分する。

3. 組成および成分情報

- ◆物質の特性 ◎酸化亜鉛のアルカリ水溶液
- ◆化学・一般名称 ◎スプレーミスト処理剤
- ◆臭い ◎わずか
- ◆外観 ◎無色の液体

成分	CAS	既存化学物質番号	配合
① 水酸化ナトリウム	① 1310-73-2	① 1-410	① 20~30%
② 酸化亜鉛	② 1314-13-2	② 1-561	② 3~7%
③ 水	③ 7732-18-5	③ ----	③ 63~78%

- ◆発ガン性物質は含まれていない。
- ◆国連番号 ◎UN1824

4. 応急措置

- ◆眼に入った場合 ◎直ちに多量の清浄な流水で15分間以上洗浄する。
◎コンタクトレンズを着用の場合、極力は外す。
◎まぶたを指で拵げ、同時に眼球をあらゆる方向に動かさせる。
◎痛みのため眼を擦ることはさせない。
◎速やかに眼科医の手当てを受けさせる。
- ◆皮膚に付着した場合 ◎服は直ちに脱ぎ、多量の石鹼水または水で完全に洗い流す。
◎炎症が続く場合は直ちに医師の手当てを受ける。
- ◆吸入した場合 ◎汚染された場所から被災者を新鮮な空気のところへ移動させる。
◎必要に応じて適切な応急措置を行う。
◎直ちに医師の手当てを受ける。
- ◆飲み込んだ場合 ◎意識を失っていたり、痙攣を起こしている被災者には口から何も与えない。
◎無理に吐き出させない。
◎直ちに医師の手当てを受ける。
◎胃中のものを希釈させるため3~4杯のミルクあるいは水を飲ませる。
- ◆医師に対する連絡 ◎特別な指示はない。

5. 火災時の措置

- ◆消防作業時 ◎消火作業者は加圧呼吸保護具（全面タイプ）を着用する。
- ◆消化剤 ◎ドライケミカル、二酸化炭素、泡消化剤または水を使用する。
- ◆熱分解生成物 ◎燃焼火災条件で、各種元素の酸化物を発生する。
- ◆引火点 ◎なし

6. 漏出時の措置

- ◆防止処理と漏出の抑制
 - ◎換気を行う。指定された保護具を着用すること。漏れを抑制して吸着材に吸着させ、廃棄用の容器に回収する。
 - ◎水で洗い流す。濡れた箇所は滑りやすいことがある。
 - ◎砂や砂利を撒くこと。
- ◆廃棄の手順
 - ◎「廃棄物の処理及び清掃に関する法」等に従って焼却処理を行うか、または許可を受けた廃棄物処理業者に委託して処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- ◆取扱い
 - ◎強アルカリのため、指定された保護具を着用のこと。
- ◆貯蔵・保管
 - ◎製品を使用しない場合
 - ◇容器を密栓すること。
 - ◇他物質が混入しないように保管すること。
 - ◇凍結させないこと。
 - ◎凍結した場合
 - ◇融解して完全に混合してから使用すること。
 - ◎施錠して保管すること。

8. 暴露防止措置及び保護措置

本製品の成分の許容濃度は次のとおりである。

成分	PEL (OSHA)	TLV (ACGIH)
① 水酸化ナトリウム	① 2mg/m ³	① 2mg/m ³ (Ceiling)
② 酸化亜鉛	② ---	

- ◆設備対策
 - ◎十分な換気設備。
- ◆安全保護具
 - ◎必要に応じて呼吸器保護具を着用すること。空気清浄用呼吸器呼吸保護具が必要な場合にはダスト／ミスト用フィルター一付の呼吸器を使用すること。
- ◆皮膚の保護具
 - ◎ネオプレンかあるいはそれと同等以上の長手袋で取り扱う。
 - ◎使用した長手袋は、作業後十分に洗うこと。
 - ◎必要に応じて交換すること。
- ◆眼の保護具
 - ◎薬品飛散防止用ケミカルゴーグル。フェイスシールド。

9. 物理的及び化学的性質

◆外観	◎無色の液体
◆蒸気圧	◎18 mm Hg
◆蒸気密度	◎ < 1.00 (空気=1)
◆嵩比重	◎ 1.35~1.45 (25°C)
◆溶解度 (水中)	◎ 100%
◆pH	◎ > 12.0
◆臭い	◎わずか
◆揮発速度	◎ <1.00 (エーテル=1)
◆引火点	◎なし
◆凝固点	◎ -15°C
◆粘度	◎ 10 (25°C)

10. 安定性及び反応性

◆安定性	◎通常の貯蔵条件では安定。
◆重合性	◎有害な重合を引き起こさない。
◆混合禁止	◎強酸化剤と反応する。酸類と混合して発熱する。
◆分解生成物	◎熱分解性生物：各種元素酸化物

11. 有害性情報

◆経口 LD50 (ラット)	◎ 500mg / kg
◆経皮 LD50 (ラット)	◎ 5,000mg / kg 概略値

12. 環境影響情報

◆水棲環境有害性	◎混合物としてはデータなし (注1)
◆生物分解性	◎データなし

13. 廃棄上の注意

使用する当該地区ないしは廃棄しようとする地区の廃棄物処理法令に準じて廃棄すること。

- | | |
|---------------|------------------------|
| ◆埋め立て地に廃棄する場合 | ◎非危険性液体廃棄物として固めた後廃棄する。 |
| ◆燃焼処理を行う場合 | ◎燃焼排ガスの処理対策を講ずること。 |

14. 輸送上の注意

運搬に際しては容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下がないよう荷崩れの防止を確実に
行う。

- ◆国連番号 ◎UN1824
- ◆DOT ハザード ◎皮膚に対して腐食性
- ◆DOT EmergencyResponse Guide # 154

15. 適用法令

- ◆毒性及び劇物取締法 ◎第2条劇物69 水酸化ナトリウム
(5%以下を含有するものを除く)
- ◆労働安全衛生法 ◎施行令別表9 318 水酸化ナトリウム
(濃度1%を超えているものが対象)
- ◆海洋汚染防止法 ◎令別表1; D類物質等
- ◆航空法 ◎告示; 輸送許容物件
- ◆危規則 ◎第3条危険物別表 第3 腐食性物質
- ◆消防法 ◎該当しない
- ◆化学物質管理促進 PRTR 法 ◎亜鉛の水溶性化合物(第1種1号) 亜鉛として3%
- ◆GHS 分類区分 ◎該当物質あり

16. その他の情報

注記1: 参考データ

水酸化ナトリウム 甲殻類(ネコゼミジンコ属)の48H LC50=40, 4mg/L
酸化亜鉛 藻類(セテナストラム)の72H EC50=0, 21mg/L